

プロジェクターでチョークアート

やなぎさわかつひろ
柳沢克央 (信州・上田仮説サークル)

katsu-y@coral.plala.or.jp



◆要旨

学校教師で望む人ならば誰でも、上図のようなチョークアートを簡単に描くことができます。(私のように) 絵心があまりない (と思っている) 人でも、全工程 1 時間ほどで、希望するならば鼻歌交じりで描けます。しかも、その出来映えには生徒たちも目を丸くするほどです。良かったらあなたも入学式・卒業式などでトライしてみませんか。

◆用意するモノ

○黒板 ○チョーク (カラフルなものをお好みで、白・黄・赤だけでも OK) ○プロジェクターと接続コード一式 ○パソコン (Windows7 で動かすことを前提に説明) ○チョークアートの見本本またはオリジナル (自作) の原画 ○デジカメまたはスマホ・ケイタイ等のカメラ付きモバイル ○歓迎や贖 (はなむけ) の気持ち (モノではないけれどいちばん大切かも)

◆少し長い前置き

1991 年 4 月、私は S 高校で教師生活初の学級担任になった。入学式の朝、HR 教室に入って

目を見張った。先輩教師たちのうちの誰かが、事務連絡だけを書いておいた正面黒板の余白に大きく「入学おめでとう」と華やかに書いてくれてあったのだ。後ろの黒板にもこれまたカラフルな色チョークで様々なイラストや装飾模様などが描かれていた。

その時、「こういう励まし方があるのか…」と感心し、漠然とではあるが「自分が先輩になったら、後輩たちにもこうしてあげたいものだ」と感じたことであった。しかし、その後、若い人があまりいない学校に連続して転任したこともあって、このことはしばらく忘れていた。

現在、研究室の隣席にはこの春、初めて学級担任になる M さんがいる。成り行きで私が「指導教諭」である。年が改まる頃から「M さんクラスの入学式にはあの時、先輩教師たちからもらった《気持ち》を伝えることができればいいな…」などと考えるようになった。

そのつもりでいると、テレビ番組の板書も気になってくる。最も気になったのは日曜日の夕方 6 時 10 分、NHK 総合テレビの「これでわかった！世界のいま」という番組である。この番組のチョークアートがほぼ毎回、「上手すぎる」のだ。番組のホームページにも簡単な説明があるが、何か「裏技」があるような気がする…。

ある休日、榎（えい）出版社という出版社のホームページを見ていると、『チョークアート』という本の紹介記事があった。このムックの表紙にとっても素晴らしい作品の写真が載っていたので、この機会にと思い、迷わずネットで注文。「チョークアート」という言葉があることはこの時初めて知った。他にも 2016 年に出版されたもので、やや毛色の違う本を 2 冊選んで計 3 冊注文した。この手法は M・J・アドラー『本を読む本』（講談社学術文庫）に紹介されている「シントピカル読書」および、板倉聖宣先生の「10 万円研究法」の応用（…なんちゃって）。

他にもわかったことがある。チョークアートの制作過程を紹介する HP は多数あるが、その中に、ある出版社内での掲示黒板用にプロジェクターを使っている旨の説明記事があった。それなら学校でも「いける」のではないかと思い、やってみることにした。

私が副担任をしている 3 年 3 組担任の S さんに「卒業式の日チョークアートを描かせてくれませんか」とお願いしてみた。すると、「いいですね～。ぜひ描いて下さい。私も生徒たち一人ひとりへのメッセージを黒板に書きたいな～と思っているんですよ。何を描いてくれるんですか～？」と良い反応。後ろ黒板の三分の一を貸してもらうことで話がまとまった。

◆制作手順

1. チョークアートの見本本にある原画をデジカメ経由でパソコンに取り込む。
2. 原画をプロジェクター経由で黒板に投影する。
3. 好みの色のチョークで模様や文字をなぞって仕上げる。言い換えればこれは模写である。

補足 1：作業は前日夕方が良いでしょう。この作業はなるべく一人で行うことをおすすめします。

理由 1：プロジェクターからの光に不要な影を作らないためです。この作業をしながら、普段の授業で板書するとき、正面の生徒から見て自分がけっこう邪魔な場所にいる時間が長そうだとことに気づきました。

理由 2：昔話「ツルの恩返し」を思い出してみましよう。また、かの世阿弥は著書『風姿花伝』の中で「秘すれば花」と言いました。

補足 2：深緑や紫などの暗色チョークは目立ちませんが、深みと重厚さを増してくれます。

蛍光緑や蛍光オレンジなどの明るい色のチョークは華やかな雰囲気をつくれます。作品の目指す方向を考えて色々工夫してみましよう（私は明るい色が「晴れの日」の気

分に相応しい気がするので好きです)。

補足3：選ぶ原画によっては「ぼかし」や「グラデーション」などの高度な技法が必要な場合もあるでしょうが、今回の原画では不要でした。本によってはチョークを細く削って使う作業を紹介しているものもありましたが、これまた今回の原画では不要でした。腕に覚えがある人は色々と工夫してみると良いでしょう。

◆第一作を制作し終えてみて (2月21日試作)

空き時間を使って化学実験室の黒板で試作をしてみた。予想以上の出来映えに自分でも驚いた。3組担任のSさんやM先生をはじめとする同室の3人の同僚に見てもらおうと、口々に「これは素晴らしい!」、「いいですね」と絶賛してくれた。清掃当番の生徒に「これはオレが描いたんだよ」と言っても「ウソだ〜」と言って信じてくれない。嬉しいような、悲しいような…。

十分な手応えを感じたので、上田仮説サークルのHPにある「掲示板」のコーナー (<https://uedakasetsucircle.jimdo.com/%E6%8E%B2%E7%A4%BA%E6%9D%BF/>) (HPはどなたでも閲覧できますが、掲示板のページのみパスワードが必要です。ご面倒でも閲覧希望の方は渡辺規夫さん nwkase@yahoo.co.jp に連絡して下さい) と仮説社に画像を送信した。渡辺規夫さん、仮説社のMさんが早速ほめてくれたので、大変に励みになった。

◆第二作にとりかかる (2月22, 23日試作)

第一作に気をよくして、第二作はとにかく早く研究を進めることを目的としてオリジナル原画から作成してみることにした。手順は次のとおり。

1. 手許にある3冊の本を参考にして5mm方眼紙に1.3mmのシャープペンシルで原画を描いた。大きさはB5の方眼紙で31マス×31マスだから、大体15.5cm角。文字などを書く時にはミニ直定規があると水平・垂直をきちんと取りやすい。イラストの得意な娘(中3)が細部を修正してくれた。
2. パソコンに取り込んで、投影のために白黒反転(図2・図3)。白黒反転の手順はWindows7の場合、次のとおり。
 - ①「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ペイント」の順に進み、リボンから「アプリケーションメニュー」タブをクリックし、表示された一覧から「開く」をクリック。
 - ②取り込んだ画像をクリックして「開く」をクリックした後、リボンから「ホーム」タブをクリックし、「イメージ」グループから「選択」の▼をクリックして表示された一覧から「すべて選択」をクリック。
 - ③画像上で右クリックし、表示された一覧から「色の反転」をクリック。以上で完了。
3. 第一作と同様に黒板に投影してチョークでなぞって完成(図4左側)。

所要時間は原画作成が約2~3時間。投影した画像をなぞる作業は40分ほどであった。(どちらかといえば私は図を描くのが苦手なほうに入ります。化学の教師なのに黒板にフラスコやビーカーの図を描くこともほとんどありません)



図 2



図 3



図 4

◆「血が騒ぐ」理由および今までのまとめ

制作していて、なぜか気持ちが高揚する。大げさに言えば教師としての血が騒ぐ気がする。理由を考えてみると、まず、学校教育の原点であるチョークを使って仕事を進めて行くから。

次に現代教師の必須アイテム（黒板・チョーク・プロジェクター・パソコン・カメラ付きモバイル・方眼紙・鉛筆・BGMにCDプレーヤー）をかなり網羅して連続的に流れるように駆使しており、普段の仕事より数段上の「仕事をしている実感」があるから。印刷機・コピー機は使わないのだが、使う必要がないダイレクトな感覚がまた良い。情報は「流れ」だ。流れてこそその「情報」だ。プロジェクターこそ、今回の「模倣と創造」の要になる重要なツールである。

この方法で特に私が強調したいと思う点は次のとおり。

1. 優れた原画をそのまま、まるごと利用し、「描く」という本来は創造的な行為を「なぞる」という単純な「模倣」作業の積み重ねに変換しているところ。
2. オリジナル原画から作成し始める場合であっても、全体の構図を取る、細かな模様を工夫するなどの準備はすべて紙の上で済ませている。そのため、黒板上では「なぞる」作業に徹することができるところ。
3. 作業が単純なのに（だから？）（原画さえ良ければ百発百中で）出来映えが良いことが保証されているところ。
4. 完成して生徒たち、同僚、仲間に見せると高い評価をしてもらうことができ、その結果、社会的な達成感が得られるところ。

以上の仕事の進め方は、なぜか仮説実験授業を行う手順に相似しているように思われる。単なる偶然の一致とは違うものを感じている。模倣と創造の深淵を覗き込むような趣がある。

このレポートを読んで「追試」をして結果を教えてくれる方がいれぱうれしい。

◆謝辞

「機会があれば誕生日レポートを書いてみるといいよ」と事あるごとに勧めてくれた上田仮説サークルの渡辺規夫さん、日曜日に電話をするとすぐに「とにかく早く書くように」と励ましてくれた仮説社の川崎浩さん、こまめに連絡を取ってくれた M さんに感謝します。岸広昭さん、期末考査で多忙な時期にもかかわらず、研究会ニュース入稿の方法などを教えてくれてありがとうございました。篠ノ井高校の多くの関係者にも感謝します。

◆典拠文献

○Valerie McKeehan 著・岩城義人訳『チョークアート・ボタニカル塗り絵』（ブティック社・2016年）

私が模写に使ったのはこの本の図柄です。一見すると平板で単純なのですが、出来上がってみると植物の線画が思ったよりもずっとゴージャスに仕上がる感じがします。32の図版を収録。

◆参考文献

○Asami 著『大人黒板』（ソシム・2016年）

プロジェクターを使わない、普通の方法でチョークアートを基礎から学ぼうとしている人に適していると思われます。説明が懇切丁寧で、描き方の例も豊富です。

○ムック『チョークアート』（樫出版社・2016年）

私が初めて知ったチョークアートの本です。クラシックなアメリカン・スタイルで描かれた本物のチョークアートの現場写真はとても重厚で迫力があります。ひとことで言えば「本格派」。計13人の作家の作品が数多く紹介されています。

◆最後に

卒業式まであとわずか。3月4日（土）の本番に向けて、誰でもできる方法でさらに完成度が上げられる道を探っていきたいと考えている。あまりに単純な方法なので「先行研究」が本当にないのか、少し気になっている。（終）〔2017年2月23日（木）午後9時50分、脱稿〕